



じんけんを「他人ごと」から「自分ごと」へ

OYAOYA 通信

学びのホームグラウンド じんけん楽習

1回目 5/22の報告

「どこが部落か、知ろうとしてはいけないの？」

～部落差別の今を考える～

森実 (じんけん楽習塾・大阪教育大学) さん

みなさん、2019年度のじんけん楽習塾がはじまりました。1回目の参加者は40名でした。最初にルールを作りました。(下記参考)

つぎに、部落問題を取り巻く状況の話がありました。その後、“小6の子どもが担任に「どこが部落か知ろうとしてはいけないの？」と聞いてきたとき、あなたが担任ならどうこたえるか、グループで話し合いました。



みんなのふりかえり

■「どこが部落か」については、知って深く学んでほしい人もいるし、知らせないでほしいと思っている人もいるし、当事者の思いを大切にすべきだと感じました。

■グループ内にいろんな立場の人がいて、話していてとても学びになりました。

■日常の仕事の中で考える機会があつたりなかつたりで、今日はじっくり考えて整理できかけたように思います。振り返りながら仕事でも活きるような気がします。まあ一差別はダメと説明するのは難しいですが以外と素直にシンプルに考え答えることが一番なのかなとも思ったりしました。

■とても興味深い内容でした。どうこたえるか考えるなかで、内容と同時に成長の過程にある子どもに対するおとなの向き合い方がだいじなのではと思いました。

■子どもからそんな「素朴」な？質問が出たとき、どうするのか？いろいろ難しいなあと思いました。フィールドワークが意味を持つのかもしれません。今、ネット上で差別していないような体をしながら、被差別部落を映像で公開するという差別が起きています。差別なんてしていないながら、明らかに差別している、そんな映像だと思えます。どこが部落か「素朴」な疑問が差別につながるのか、悩みました。どう被差別部落の地名を扱うのか考えていきたいです。

■「子どもにきかれた教員」だけでなく、広く知人(?)に「なんであかんの？」ときかれたら、個人としてはどう向き合う/応えるか も考えたかったです。あと、こちらから「検索すべきでない」「調べようとするのがアウト」というような発信をすることについても。

♪好奇心 知った先には 責任と葛藤があるよ (字余り)♪

■子どもに“かつとう”させることも大切で、そこに向き合っていくことで、新しいことも見えてきたり、さらに一歩進んでいくこともできるのだと思いました。

■先生のお話だけでなく参加者の方のいろいろな考え方を聞いて、自分だけでは思いつかない発想がたくさんあり、参考になりました。特に小学生からの質問に対する答えが「実際に現地を見に行く」だったことが、まったく発想がなかった。また、小学生からの質問を「チャンスととらえる」という発想も参考になりました。

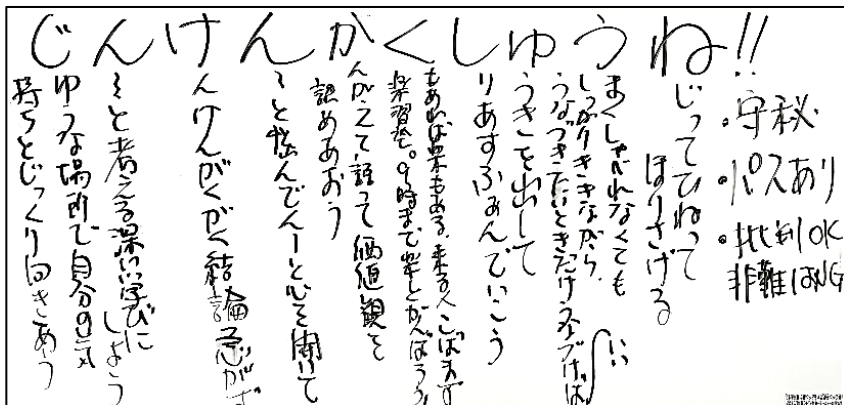
■「どこが…いけないの？」って言われたら、どう答えるかなんて、聞かれるって考えただけで「ギャーそんなん聞かんといて」ってなる自分のかつとうとまず向き合うこと…答えを聞きにきたのに…(笑) けど、いいチャンスととらえるためにもっと知らんとあかんと思いました。すぐ思考停止になるけど、フリーズせずに進みたいです。

♪こわいけど 向き合うべきは 自分かな ♪ (さち)

■来てよかったなあと思っています。いろんな人が来ているのがええと思います。遠くからも仕事おわりでかけつけ人も

■グループに分かれて話し合いができて、意見を交えて考えることができて楽しかった。教師の立場になって考えるところで、差別について改めて考える機会が与えられ、有意義な時間で、長時間で、お腹がすきましたが、参加できてよかったです。

■無邪気な質問が人を傷つける。知らないことで人を傷つける。この怖さを大人になってから知るより、こどものうちにしっかり先生と人権感



覚を学べるそんな学校であってほしい。また、自分に聞かれたとき誠実によりそえる大人でありたいと思った。(ALI)

■子どもから出たら(教師が)困る質問は、考える教師を育てる。同和問題学習においてはそうした切実な局面が現れやすいと思いました。♪ 楽習塾 みんなで集い シリアス fun(ファン)♪ (ok)

■大学で、人権校に実習に行く団体に所属しています。今日の話合いで自分が学校でちゃんと人権教育を受けられなかったことが、とても悔しかったです。実際にFWに行ったら、学ぶことが多くて、頭というより心で学んで、心にジーンとくるものがたくさんありました。「部落」はどこか遠い話で、差別なんかなくて思われていることが、とても悔しくて、その考えが差別を生み出していることだと思います。学校で堂々と人権教育を学べる時が来てほしいです。(ちはやふる)

■私は教員ではないのだけでも、こういった質問が出たとき、対応に悩む人が多くなってきていると思います。今回のような学習を学校や教員間でできる環境があればよい。つくる必要があると思いました。丁寧いろんな意見を出しあえば道筋がみえると思いました。

■ピンチと思わずチャンスと思うために必要なことをたくさん聞くことができました。「共に学んでいく」姿勢や安心できる着地点というワードが自分の中ではしっくりきています。一人ではなく、まわりとつながりながらチームとして取り組んでいきたいと思っています。

■久しぶりに人権学習という場に自分を置いてみて、八尾にやってきたころや、石川さんとの出会い、隣保館や活動の場での出会いを思い出しました。

■葛藤しつつ前進する…のは、教員の方でもあるなと思いました。「どこ」を知りたいが…のかもしれないけど、対応としては「だれ」に出会わせたいなと思いました。

■部落という言葉がひとり歩くこわさ。知ることによって前進する力になれば良い。♪ 君がいて 蛍を追って 僕が居る ♪

■もし自分が、質問された時、うまく答えようと思わず、一緒に考える。チャンスと考える。「あなたのギモンは私の学びにつながったよ」と伝えたい。知らないことは悪いことじゃない。知ってからどうするか、子どもと向きあう。

■いろいろな方と意見交換、交流ができました。「子どもから出たら心配な質問にどうこたえるか」のワークでは自分の中の葛藤について向きあうことの大切さについて、深く考えることができました。ありがとうございました。

連絡

もし参加者の皆さんで宣伝したいチラシ等ありましたら、ご持参ください。毎回ふりかえり用紙をくばりませぬ。後でメールファックスでもいいので送ってください。お願いします。通信に反映させたいと思います。(公開だめなものはオープンにしません)

写真を撮影しますが、OYA OYA通信、八尾市人権協会のホームページなどで使用する場合があります。なるべく個人が特定しにくいものをと考えていますが、困るという方は事務局に申しつけてください。

■今は部落問題について、学校や教員が中心になって教えていくということになっていますが、いつか各家庭できちんと話ができるようになればいいなと思いました。いろいろな立場の方のご意見をきけたことが、今回の学びになりました。来る前は森先生がしっかり講義をする形式かと思っていたので、それがあまりなかったのは少し残念でした。

■子どもと一緒に学ぶという姿勢を忘れないこと、大人がつながってつながって子ども達に伝えていくこと、「あなたは大切な人」という根本をわすれないうで前進すること。

■勉強したにもかかわらず、(笑)やはり染みこんだ自分の方法？学習方法？考え方はわからないなとハッとさせられました。安心して学習を進めることができる＝不安定な質問がでない ということではないということに改めて考えさせられました。(ke-ko)

■自分自身が感じて動き出したきっかけ「お腹の中でグルグルと回る葛藤」を思い出しました。あの時はそのモヤッとした気持ちに否定的な感情をいただいたのですが、そこからスタートするということがすごく大切だと感じることができました。

■自分の中でも、あまりはっきりしていなかった問題について、いろいろな考えが聞けて、一定の答えを得ることができよかったです。

■難しい問題ではあるが、きちんと教育啓発することが大切であると感じました。当事者が知られたくないという気持ちもあるという指摘に考えさせられた。

■正しい知識、情報の自分の心に重ねながら知っていければ、次につながっていくのではないかと思う。大変勉強になりました。ありがとうございました。

■「どこが部落か知ろうとしてはいけないの？」という問いに、どう答えるかグループの方と話す中で、全体の意見を聞かせていただく中で、深く考えることができたと思います。教育現場での不安は、やはり一人ではなく、学校単位で取り組む必要性も改めて感じました。とても充実した時間となりました。ありがとうございました。

■「どこが部落か知ろうとしたらいけないのか？」という質問が来た時に、いちばん葛藤を抱えているのは自分なんだろうなと気づくことができました。質問してきてくれた子といっしょに学ぶという考えはなかったです。実際に自分自身もフィールドワークに参加して学びたいと感じました。学校でもほとんど学ぶことがなく、勝手に自分がタブー視してしまった内容を考えることができ、とても勉強になりました。ありがとうございました。

■困る質問、考えたい質問 なんで差別があるの？ どんな差別？ ⇒ そんなん ほんま？ なんでそんなんしたい？するん？ また、考えたいで一す!!

